

s u m m e r . 2 0 1 1 大阪教育大学 広報誌

## 新入生のみなさんへ

新入生のみなさん。新しい大学生活にはもう慣れましたでしょうか。

さて、入学式の時にもお話ししたことでありますが、大学が社会から求められている社会人 基礎力として、「人のこと、他人のことをわがことのように感じ受け止めることのできる力」がある のではないかと考えています。

現在の社会は、多くの人たちが、様々に違った立場や環境にありながら、それぞれ多様な個 性を発揮してその特徴を生かしていく社会です。しかし、その一方で、立場を異にし、多様な 人々の間で、他人のことをわがことのように受け止めていく能力が求められています。そのことな くしては、現代社会は、単なるばらばらで無方向な社会にすらなってしまう、と考えています。とり わけ、東日本の大きな震災を受けた年に本学の学生となられたみなさんに、このことを受け止め 自ら成長していくような力として培っていただきたいと思います。

大阪教育大学長 長尾 彰夫





石田 雅人

新入生のみなさん、入学 を 希望を持ちましょう。教育に 深くコミットした学び手として、



教養学科長 高橋 誠

新入生のみなさんの入学 を歓迎致します。大学での学 びは、自らが様々な問題に好 奇心を抱いて問いを立て、そ の問いに答えるための道筋を 既存の知識をも検討対象とし て論理的に考え、客観的な 根拠に基づいて探求する学 びです。また、探求的な学び から生まれた新たな知、ある いは知の創造過程が"よく生 きる"ための目的や経験とどの ように繋がっているのか、知の 意味を問う学びでもあります。 みなさんが、物事を変えること ができるという意志と希望を 持ち、知の根拠と意味を問う 学びによって、充実した大学 生活が送れるよう願っていま



夜間学部主事 正木 久仁

第二部にご入学されたみなさん の多くは、学業と仕事の両立をめ ざしておられることと思います。でき れば、昼間の時間帯を生かして、 学校現場に接する仕事に従事し、 何かを得てほしいと思います。第 二部は小規模ですが、多様な経 歴の人と密度の濃い関係をつくる 機会が多く、サークルや学生主体 の学校行事等も活発です。これら に参加することは、将来、学校現 場における集団づくりのベースに なるはずです。そして、大学生とし て学ぶということはどういうことなの か、じっくり考えてください。定めら れた道をひたすら進むのではなく、 模索し発見する学生時代にしてく ださい。私からは、読書、とりわけ古 典を通して人間の英知や営みの 歴史にふれることをお勧めします。



教職教育研究開発センター長 センター連絡会議議長 安福 純子

新入生のみなさん、大学 生活の調子はいかがです か。大学生の入学期の特徴 の1つに「内発的な学習意 欲が問われる | があります。 最終的には単位認定という ことで成績が出ますが、今の ところは放し飼い状態ともい える初めての経験をなさって いることでしょう。今こそ自分 がどのように学びと向かい あっているのかが問われて います。現実から学ぶと同 時に、図書館を存分に活用 し、常に本が1冊手元にある ような大学生活を送ってくだ さい。

### おめでとうございます。大阪 っと、いいことがあ 教育大学ファミリーの一員に なられました。今年は、なんと いっても、未曾有の大震災 が起きたという現実を避けて 通るわけにはまいりません。 しかし多くの方々が語ってい るように、互いに立ち直りを 支えてまいりましょう。「人間 (じんかん)到る所青山あり」 という一節があります。世の 中悪いことだけではありませ ん。きっといいことがあります。

新入生への

できることがあります。みなさ

んには、できます。

**STUDENTS** 

す

東日本大震災

**INDEX** 

ラボ訪問

NOW!

リアルタイム

附属学校園 ウォッチ



大阪教育大学附属池田小学校事件から 10年を迎えた6月8日(水)、「学校安全の日」 の行事として、附属池田小学校では午前9 時から「祈りと誓いの集い」があり、出席した 在校児童や教員らは、亡くなった児童に祈り を捧げるとともに、安全で安心な学校づくりを 誓い、同校で起こった事件について改めて 心に刻みました。

平成18年の6月8日から取り組んできた 「附属池田小学校事件を語り伝える事業」を 継続し、教職員と学生が一体となって、全学 規模で附属池田小学校事件を振り返り、学 校安全への決意を新たにするものです。

大学では翌9日(木)、柏原キャンパスで3限目(13:05~14:35)、天王寺キャンパス第二部で2限目(19:30~21:00)の全授業中に冊子『附属池田小学校事件を語り伝えていくために』を配布し、担当教員から学生に対して附属池田小学校事件の概要が伝えられました。

### 10年目の事業を推進

今年度は、事件から10年となりました。 「10年のあゆみを振り返り、より安全な学校 づくり、まちづくりにむけ、次の10年に向けて の決意を固める]ことをめざして、大学と附属 池田小学校が一体となって事業を実施しま した。

「集い」終了後の午前10時からは附属池田小学校体育館で「先生からのメッセージ」が実施されました。事件の当日、附属池田小学校に勤務していた教員7人が、先生という立場から児童や保護者に向けて、事件を通して得た思いや願いを伝えました。教員の1人は「担任をしていた児童が大学生になり、DV被害者など心と体が傷ついた人を助ける仕事にかかわっていると聞きました。事件のことを心に刻み、進路を選んでくれています」と話しました。

午後5時半から体育館で実施した交流会には、他校へ転出した16人の先生や卒業生の保護者など約100人が集まりました。事件当時に担任をしていた先生方は「安全・安心の学校・まちづくりを広げる使命感をもち、他校でも頑張りたいと思います」。また、事件後に赴任した先生は「子どもを守るという教師の原点を、先輩の先生方の後ろ姿から学ばせていただきました」と振り返りました。

体育館には、10年の歩みを伝える写真パネル(A1判)56枚や、鉄腕アトムのマークの

入ったTシャツや、激励のサイン入りサッカーボールなどの資料が展示されました。パネルでは、仮設校舎と改築校舎建設の経緯などのほか、義援金、登校立ち番などのPTA活動、安全な学校・まちづくりに取り組む教職員と保護者、地域の人たちの様子などが紹介され、参加者たちは食い入るように見つめていました。



### 池田市と共催で 「学校安全シンポジウム」を開催

平成13年6月8日に起きた大阪教育大学附属池田小学校事件を踏まえ、学校・保護者・地域社会それぞれの学校安全に関する危機意識の向上ならびに互いの連携強化を図ることを目的として、6月11日(土)、池田市民文化会館で「学校安全シンポジウム」を開催しました。事件直後に市民安全大会宣言を行うなど地域に根ざした安全・安心なまちづくりを推進する池田市と、昨年3月に我が国で初めてISS(International Safe School)の認証を取得した大阪教育大学附属池田小学校、大阪教育大学によって実施されました。



シンポジウムでは、まず齋藤軟能氏(横浜 国立大学名誉教授・現東京福祉大学短期 大学部長)が「学校安全と地域社会」をテーマに基調講演。「子どもや学校の安全にとって地域の人々の協力と連携が何よりも大切」「地域の人と学校関係者が一堂に会し情報を交換するなど、心のふれあいが求められます」などと強調されました。次いで、パネルディスカッションが行われました。パネリストは倉田薫氏(池田市長)、衞藤隆氏(東京大 学名誉教授・現日本子ども家庭総合研究所副所長)、平田オリザ氏(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授)、藤田大輔氏(学校危機メンタルサポートセンター教授、前大阪教育大学附属池田小学校長)の4人で、コーディネーターを長尾彰夫学長が務めました。パネリストから、学校現場で子どもたちが生と死の問題を学ぶ機会を作る必要があるなどの問題提起が行われました。

最後に、池田市と大阪教育大学がこれまでの取り組みを踏まえ、グローバルな視点に立ち「安全・安心なまちづくり学校づくり」について、池田市・大阪府内はもとより広く国内外に発信することを申し合わせました。

### 『2010年度 大阪教育大学 男女共同参画報告書』の ダイジェスト版ができました!



大阪教育大学男女共同参画推進会議企画専門部会では、2010年度報告書のダイジェスト版を作成しました。本学の現状を把握するためのデータ、男女共同参画推進に向けた体制、各種調査活動、家庭生活と仕事との両立支援の取組み、啓発活動の紹介など、昨年度の成果と課題をコンパクトにまとめたものです。イラストは本学美術教育専攻の大学院生、向川千世さんが担当しました。

また、「大阪教育大学における男女共同参画推進指針」も掲載しました。ここに示した「基本理念」と「基本方針」に基づき、今年度はアクションプラン(行動計画)の策定に向けて活動していく予定です。

学生及び教職員の皆さんに、広く本学の 男女共同参画推進に向けた取り組みについ て知っていただくために、ダイジェスト版を編集 しました。

※より詳細な情報は、『2010年度大阪教育 大学男女共同参画報告書』をご参照下さい。 大学ウェブサイトからもダウンロードできます。 (http://osaka-kyoiku.ac.jp/university/ iinji/2010houkokusyo.html)

### ひと最前線

001



- ■今春、副校長から校長に昇任しました。本学の附属学校園では専任の校園長は初めてのことです。また、10年前の池田小事件当時、教員として事件の現場に身を置き、その後、教員として勤務し続けたのはこの人だけです。「専任の校長として何らかの成果を挙げなければいけないというプレッシャーを感じている日々です」
- ■着任に当たっての保護者への挨拶では、「いい学校にしたい」を強調しました。では「いい学校」って何?となると、「いい子どもが育つ学校」であり、「そのためには、やはり先生がポイント」だと強調します。「1日の学校生活の中で子どもと接する時間は授業が一番長いのです。授業はつまらなくても休み時間に遊ぶので子どもが喜んでくれるとか、授業の合間に面白い話をするから人気だとか、それが無意味だとは思いませんが、そこに逃げてはいけないのです。教員一人ひとりが授業をしっかりとやるのが基本です」ときっぱり話しました。
- ■そのためには、校長がいつでも教室に入って先生方の授業を見せてもらい、参観日や研究発表会などの機会を捉えては自ら積極的に授業をやってみせたいと言います。「先生方のプライドは尊重しなくてはなりません。自分より校長の方が少しは授業力が上だとなると、話も聞いてくれる気がします。校長といえども肩書きだけでは仕事はできないですよ」

授業の大切さを話す語尾の強さに、

「生涯、一人の教師でありたい」という気 概がうかがえました。

池田小事件から10年となった今年6月、「学校安全シンポジウム」をはじめ一連の事業を行いました。「この10年の歩みを振り返り、より安全な学校づくり、まちづくりにむけ、次の10年に向けての決意を固めることができたように思います」

- ■昭和60年大阪教育大学卒。「4年間、 剣道に明け暮れました」。初任は大阪市 立城北小(旭区、4年)。次いで同中大 江小(中央区、8年)で勤務したあと、平 成9年度から附属池田小に赴任しまし た。それまで専門は体育科でしたが、附 属池田小では国語科を担当しました。 15・16年度は教務主任を務めました。 教務主任のときに、校舎改築や新しい 制服のデザインなど様々な出来事が あったと振り返ります。そして17・18年 度、事件当時の1年生が5、6年生になっ たときに彼らを担任し、卒業させました。 その後19年度から副校長となりました。
- ■特技はパソコンで、授業で使うデジタル教材だけでなく一斉連絡メールソフト、 出席管理システムなどを制作しているといいます。

4月から後任の副校長に赴任した眞田巧氏は事件を経験した元同僚の一人です。「何とも心強く思っています」

(広報室)

File.012

教育学部教員養成課程家政教育講座 准教授 鈴木 真由子 (すずき まゆこ)

### 家庭科は生き方を考える教科





外部講師とともに消費生活を考える

「家庭科はこれからますます面白い。取り 扱うジャンルが幅広く、奥が深いですから。そ れに、今まさに起きている問題をストレートに 取り上げられるところも、家庭科の大きな魅 力です」

東日本大震災は、家庭科の教育研究の ねらいをより鮮明にするきっかけの一つで あったといいます。「例えば今回の震災は、生 活すること、生きることの原点に関わる重要 な問題を投げかけました。その中で、精神的 に大きなダメージを受けた人々が、心の復興 をするためには"ていねいに暮らす"ことが何 より求められています。ちゃんと寝て、ちゃんと 食べる。一日の暮らしのルーチンワークをて いねいにこなす。そうした衣食住に関わる営 みを意識しながら暮らす。そこから、家庭科が 求める"生活をマネジメント(経営・管理・設 計)する力"の復活につながると思うのです」

そのベースには、「批判的に考える力」(ク リティカル・リテラシー)が不可欠であるとい います。

例えば、ジェンダー(社会的性別)と男女 共同参画社会の問題について、「まずは、こ れまでの"当たり前"を批判的に捉え直すこ と。社会的な慣習や制度などはもちろんです が、夫婦関係も同じです。自分の"当たり前 を問い直し、コミュニケーション・ギャップを埋 めること、パートナーにどうしてほしいかきちん と伝えることが大切です」「しかし、家庭内の 自助努力だけでは限界があります。ではどうし たらいいのか。そこに、社会の仕組みを変え ていこうという視点が生まれるのです。それが

男女共同参画社会の実現につながります」

食べ物、住まい、衣服、物、何を暮らしの中 に取り入れたらいいのか。「これは性に関係 なく、意識して主体的に選び取る力を身に付 けることが大切です」

原発事故によってクローズアップされた 「エネルギー問題」。これも批判的に考える力 が不可欠だと言います。「わたしたちはライフ スタイルを問い直すべきです。これまでの日 本人の働き方、暮らし方などを大きく変えるこ とが求められています。新しい生活の価値を 創り出す必要があるでしょう」

"いのち"の問題にもアプローチしていま す。「家庭科は人の一生、生まれてから死ぬ までを視野に入れた教科です。しかし、子ども たちの家庭生活から"死"が遠ざけられ、"い

のち"に対するリアリティーが薄くなっていま す。だからこそ、教える側がそれを意識する必 要があります」「教科学習だけではありません。 学校の教育活動すべてが、"いのち"の学習 につながっています。教師自身の立ち位置も 問われます。例えば、学級担任をしているクラ スの子どもが、忌引きを終えて登校してきたと きに、担任教師としてどのような言葉をかける のか。教師をしていれば、いずれ経験する場 面です。もちろんケースバイケースですし、マ ニュアルも正解もありません。教師をめざす 学生には、在学中に一度は考えてほしい問 いです。そうした準備と覚悟が"いのち"の学 習の第一歩かもしれません」と家庭科の幅 広さ、奥深さを熱く語ります。



### File.013





本学の夜間大学院・実践学校教育専攻は1996年に「現職教員の学びの場」として設置され、2007年からは、教師教育の高度化・重点化をめざして「学校づくり・授業づくり・教師づくり」を理論的・実践的に学ぶ3コースが導入されました。スクールリーダー・コース(SLC)は学校の組織的リーダーを育成するもので、「大阪の学校づくり」は関係する選択科目の一つです。

大脇教授は、プログラムの設計を行い、ファシリテーター役の教員と連携しながら、授業運営のコーディネーターを担当します。『大阪の学校づくり』は、地元大阪に根ざした学校づくりを学ぶ「講義+参加体験型」の授業です。大阪府・大阪市教育委員会との連携によって生まれた全国的にも珍しいプログラムです。5月から7月まで、土曜日午後5時間(3コマ)の特別講義を、月2回のペースで計5回にわたり展開します。授業内容は、学校評価、授業評価、教員評価を3本柱に、学校現場で焦点化しているテーマを織り込んでいきます。

広報担当者は5月14日(土)、大脇教授の研究実践の一端にふれようと、天王寺キャンパスで「大阪の学校づくり2011」の第1回講義を取材しました。この日のテーマは「学校教育自己診断の政策と実践」でした。 受講者は

公立学校の現職教員を中心に17人です。

毎回、教育委員会からゲストティーチャーを招いています。この日は大阪府教育センター教育企画部企画室長の村田純子氏が講義を行いました。学校運営を評価する「学校自己診断」と、学校の改善や発展を提言する「学校協議会」のあり方などについて解説しました。

講義のあとはワークショップです。各人が仮 の学校協議会の委員になって1つの高校の 診断結果を読み取る個人作業を行いました。 学校の良い点と悪い点について気づいたこ とを2色の付箋紙に記入していきました。その 後、3班に分かれてのグループワークです。学 校の強み・弱みを意識したSWOT分析※1の 視点を組み込んだKJ法※2による活動です。メ ンバーでディスカッションしながら結果分析と 提言づくりをしました。最後に、各グループが 学校に提言する内容を模造紙に書き込み、メ ンバーの前で学校協議会の代表としてプレゼ ンテーションしました。「この学校を丸ごと把握 し、課題を明らかにしたうえでまとめてほしい。 問題点を指摘するのはたやすいですが、学校 を応援するという視点で、温かい提言をお願 いします」と大脇教授は受講生にアドバイスを 送ります。「この事例に取り組んで3年目にな ります。生徒の評価アンケートからこれだけの 分析ができるのだから、自分が勤務している学

校にも適用していただける手法ではないかと 思います|と語ります。

プログラムでは、2回目以降もテーマを発展させ深めていく学習を展開。毎回違う手法でチャレンジしました。各参加者がまとめたリポートと学習成果等の分析は報告冊子『大阪の学校づくり(各年度版)』として発刊されます。

大脇教授の専門分野は教育経営学、教師教育学。スクールリーダー・プロジェクト(SLP)を組織し、大学と教育委員会が連携して学校を支援し、スクールリーダーを育成する事業を展開しています。

\*\*1[SWOT分析] 1960年代に考案された、組織のビジョンや戦略を企画立案する際に利用する現状を分析する手法の一つ。SWOTは、Strength(強み)、Weakness(弱み)、Opportunity(機会)、Threat(脅威)の頭文字を取ったもの。

\*\*2 [KJ法] 文化人類学者川喜田二郎(東京工業大学 名誉教授) がデータをまとめるために考案した手法であ る。データをカードなどに記述し、グループごとにまとめて、 図解し、論文等にまとめていく。KJとは、考案者のイニ シャルに因んでいる。





### 安達 萌(あだち もえ) さん

大学院芸術文化専攻音楽研究コース(2回生)

ーピアノとの出会いは。

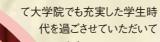
安達 物心がついたときからです。母がピア ノを弾いていたので、自宅にピアノがあり、自 然と触れるようになりました。両親を生徒に、 音楽の先生ごっこの遊びをして育ちました。 一中学高校もピアノを。

安達 中学校には吹奏楽部がなかったので、 3年間、剣道部に

いました。剣道の胴着姿が格好よくて憧れた のです。3年のとき主将もやらせていただきま した。家ではピアノをずっと練習していましたの で、高校進学は兵庫県立西宮高校音楽科に 進みました。

一本学の音楽に進んだのはなぜですか。

安達 初めから大教に行きたかったのです。 高校の先輩で大教の音楽に進んだ方がおら れ、また、先生方の指導レベルが高いことは 知られていますが、音楽専門の大学とは違っ て、いろいろな専攻の学生がいるので、交流を 通して視野を広げることができると思った



います。

-本学のよさ を具体的に。

安達 アット ホームなところ です。学生も 先生も数が少 ないので、演 奏でも仲間同 士で助け合わ なくてはなりま せん。わたしも バイオリン、フ ルート、声楽な どのサポートを 頼まれます。

伴奏をすると非常に勉強になります。演奏者 の息づかいを肌で感じることができるので、ソ 口のピアノ演奏にも得るところが多いです。

一将来の夢は。

安達 演奏活動ができる道に進むことができ たらと思っています。12月に修了演奏があり、 今はそこに向かってまい進しています。

これまで支えてくださった, 先生やわたしの 周りのたくさんの方々、そして家族のお陰で歩 んでこられました。特に志賀美津夫教授(教 養学科芸術講座)には、6年間未熟なわたし を大きな心で導いていただきました。

志賀教授は「彼女は素晴らしい素質をもっ ています。時には肩の力を抜いてもいいので はないかと思うほど頑張りやで、練習にのめり 込むことがあります」と話します。



①第23回和歌山音楽コンクール 平成22年8月 (主催/ニュース和歌山・和歌山市・和歌山 市教育委員会)ピアノ部門(大学生以上の 部)第1位、和歌山市長賞

〈演奏曲目〉M. ラヴェル: ラ・ヴァルス=写真

②第4回ベーテンピアノコンクール全国大会 平成22年12月

大学·院生A部門第1位

於・曳舟文化センター(東京)

〈演奏曲目〉三善晃:ピアノソナタ第2・3楽章



# ZEALTIME

### 高度専門型理系教育指導者養成プログラム第Ⅰ期受講生が活躍

井村 有里さん

Yuri Imura

「生体物質の分解や合成反応において触媒として機能するタンパク質を生体触媒、酵素と言います」「ヒトの物質代謝でも中心的な役割を果たしており、その種類は3千種類に及びます。いくつかの酵素に注目してその働きをみてみましょう」

5月19日(木)の第1限目、本学附属高校 天王寺校舎3年生の生物選択授業「化学 反応と酵素」の一場面です。井村さんは生徒 たちに丁寧に語りかけます。

「正規教員として学校現場に入る前に、学校現場でより実践的な研修をさせていただいています。生徒とふれあうことができるので、大変勉強になります|

本学が要(かなめ)となって立ち上げ、平成22年度からカリキュラムが本格スタートした、「高度専門型理系教育指導者養成プログラム」(本学と大阪府教育委員会、研究重点大学院による連携)の第1期受講生の1人です。この夏は、教員採用試験にエントリーしますので、生徒とのやりとりにも気合いが入ります。

井村さんは京都府立大学を卒業後、京都大学大学院(生命科学研究科)で学位取得をめざして研究しながら、このプログラムに応募しました。本学で教職ゼミナール、学校インターンシップ、国内外の実地視察等を精力的にこなしています。「理科の教諭として教壇に立つ夢をもう少しで叶えることができそうです」と目を輝かせます。



附属高等学校天王寺校舎で3年生に生物を教える井村さん

加藤 智成さん

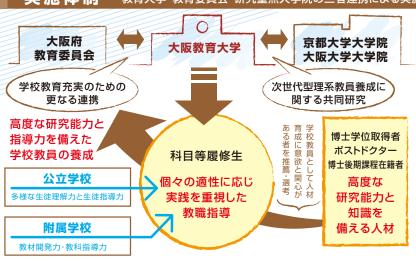
Tomonari Kato

同じく1期生の加藤さんは京都大学大学院(理学研究科)で物理学を専攻し、超伝導現象の研究が専門です。卓上に置いた簡単な装置を使って超伝導現象の演示実験をすると、生徒たちは眼を丸くして見入っています。「生徒たちの素朴な驚きや感動を引き起こし、科学への関心につなげる授業を展開する工夫を常に心がけていきたい」と語ります。

今年5月の大型連休には、附属高校天王 寺校舎SSH(スーパーサイエンスハイスクー ル)の生徒たち19人の海外研修(サイエンスアドベンチャー)に井村さんと共に同行し、アメリカの首都ワシントンにあるスミソニアン博物館、アーカンソー州立大学の数理芸術高校等を訪れました。「州の中から選抜された学生や生徒たちと交流でき、とても刺激的でした。ボディーランゲージを交えながら、アメリカの生徒たちと堂々と渡り合っている姿を見て、一緒に行った高校生たちのたくましさを感じました

加藤さんはプログラム2年目の今年は大阪府立高校でインターンシップに取り組むなど、現場体験を積み重ねながら教壇に立つ日のための準備を着々と進めています。

### 実施体制 教育大学・教育委員会・研究重点大学院の三者連携による実施





アーカンソー州立大学のラボで生徒の実験を見守る加藤さん

卒業生CATCH!



手と手を合わせて「ハイタッチ」。年長の園児たちは、取材で教室を訪れたスタッフに笑顔であいさつをしてくれました。宇野先生と園児とのいつものあいさつだそうです。

訪れたのは5月12日(木)、子どもたちは、ゆうぎ室で絵本やブロック、クッションなどで遊んだあと、雨上がりの園庭に飛び出しました。どろんこ遊び、スケーター、ブランコ、ジャングルジムなどにチャレンジしました。「どの子ものびのびと生活してほしい。幼稚園が楽しいと言ってくれると嬉しいですね」



昨年4月に赴任したばかりでキャリアは1年とわずかですが、昨年は年少を受け持ちました。 今年は初めて年長クラスを担任しています。 「小学校への接続の大切な年齢です。集団生活の中で仲間と一緒に生活する力を培っていまたいと思っています」

心がけていることは?「一人ひとりに目配りし、 ほめることを大切にしています。もちろん、しか るときもあります。好きなことは一生懸命やって ほしいのですが、勝手なことはいけないなど、な ぜいけないのか、しっかり分かってもらえるよう にしています」。福田愛子園長は「初めてのこ とばかりで失敗もあろうかと思いますが、素直 で前向きでやる気があります。周りの先生から 学ぼうという意欲がみられ、育てがいのある素 敵な先生です」と話します。



幼稚園の先生を将来の職業にしようと夢見たのは小学校高学年の時だといいます。「1年生の子どもたちと遊ぶのがすごく楽しかったです」。中学校に進み、職業体験学習で幼稚園に行って、先生方の楽しそうな仕事ぶりが印象に残ったといいます。高校での進路選択では迷わず大阪教育大学に絞ったそうです。「幼稚園の先生はずっとなりたかったので、その職業に就くことができた喜びを日々感じています」



後に続く後輩にはメッセージをこう送ります。 「最後の学生生活なので思い切り楽しんでほ しい。遊ぶことだけでなく、サークル活動やアル バイトの経験も、実際に働いたときには必ず役

### に立ちます

昨年春、自身、幼稚園教諭として園児の前に初めて立った感想について「教育実習の時とは責任感が全く違いました。保護者の方も園での様子や、子育ての悩みなど気軽に相談してくださるのでしっかり応えるように心がけています」

Mamiko

大阪教育大学での4年間は「とにかく楽しかった。サッカー同好会に入り、4年間仲間と青春を過ごしました。サークル活動もしましたが、勉強も頑張り、学科の友だちもたくさんできました」

休日は、大学時代の友だちと集まり情報交換をするそうです。話題はファッションや芸能、恋愛などもでますが、どうしても仕事の話や担任している子ども自慢になるといいます。「共通の夢に向かって歩んでいますので気が合います」



最後に「子どもって本当に面白い。毎日あきないです。できなかったことができるようになり、成長していく姿を見ることができた時は、幼稚園の先生になってよかったと感じます。これからも子どもたちと園生活を一緒に作り上げることのできる先生になりたい。そして、憧れの存在でありたい」と、目を輝かせました。



「ピア・サポート」とは、"なかまがなかまを支援する"活動で、同校では、児童の保健委員会活動で取り入れています。

5月16日(月)に実施した第2回児童保健委員会(5,6年生)の集まりで「ピア・サポート」について清家先生が説明を始めました。

「ピアって仲間のことです。サポートって力になってあげることです。わたしたちの保健委員会と何か関係があると思いますか?それは、茨田南小のみんなの体と心が元気でいられるようにすることです。保健委員会として1年間通して活動を進めていきましょう」

委員会の児童は真剣な表情で耳を傾けています。説明の後には、すぐにプログラムが始まり、ジェスチャーなどのコミュニケーションだけで誕生日を確認し、月順で輪に並ぶバースデー・チェーン、そのあと一人ひとりが「自分の好きなこと」「最近うれしかったこと」を自己・他己紹介しました。友だちの話をしっかり聞くことで、互いを知り、違うクラスの友だちと仲良くなることがねらいです。児童はすぐにうち解けていきました。

「活動を通して、子どものよさや発想を生か し、相手を思いやる心を育てます」と清家先 生は言います。

プログラムの最後には「6月4日は虫歯予防デーです。歯科医師さんに言われたように、しっかりかむ習慣を身に付けて、虫歯をなくす活動に取り組みましょう」と清家先生は児童に呼びかけました。

新任の養護教諭として赴任して4年目に

なる清家先生を茨田南小学校の山野誠二校長は「保護者からの相談にもしっかり対応してくれますので、安心感を与えています」と語ります。

養護教諭を将来の仕事として決めたのは 高校3年の秋だそうです。「しんどくなって保 健室を何回か訪ね、休ませてもらい、進路に ついて話したのがきっかけです。赴任したば かりの若い先生でした。保健の先生につい て話していると進路が開けた気持ちになりま した」と当時のことを懐かしく語りました。

今では、卒業生が保健室へ清家先生を訪れるとのこと。「なんか保健室は落ち着くわ、なんて言ってもらえると嬉しくなります。この仕事をやっていてよかったと思える瞬間です」

大学4年間は、勉学以外にモダンダンス部のクラブ活動のほか、学生チャレンジプロジェクト、小学校での特別支援教育のボランティア、学校サポート活動などに参加し、現場感覚を培いました。「一番の思い出は、仲間と取り組んだモダンダンス部です。ダンス漬けの4年間でした」と振り返ります。

小学校から続けているクラシックバレエは 趣味の域を超え、生徒を教えるまでに至って いるそうです。

大学の授業で受けた救急救命措置の研修は現在、養護教諭として働くうえで大変役に立ったといいます。「専門科目も含め、教職教養などは、働くことのイメージにすぐ結びつかないと思いますが、現場に身を置いていると、いろいろな場面で先生のおっしゃってい

たことが身にしみるときがあります。もう少し勉強しておけばよかったというのが正直な気持ちです | と語ります。

「茨田南小学校の先生方は大変協力的で相談にも応じてもらえます。子どもを通して担任との情報交換を密にしています。先生方は忙しいのでこちらからまめに働きかけるよう心がけています。どちらかというと楽観主義です。壁にぶつかったらなんでも管理職の先生や同僚に相談し、ひとりで抱え込まないようにしています|

大阪府内で同じ養護教諭として頑張る同窓生との情報交換も定期的に集まっており、 楽しみだといいます。





### 義捐金に147万円 対策本部も設置

東日本大震災を受け、大阪教育大学挙げて 被災者支援の取り組みを行っています。まず、 義捐金は3月18日から約1ヶ月で大学と附属 学校園から約147万円が寄せられました。

また、5月16日(月)には、学長始め全理事と部局長らが出席のもとで「東日本大震災復興支援対策委員会」が開催されました。プロジェクトを設置し、学生のボランティア派遣等について検討します。

具体的には、夏休み期間に、宮城教育大学 学長の要請に応えて、学生のボランティア派遣 を計画しています。現地の小中学校に宮城教 育大学の学生と一緒に出かけ、子どもの補習 指導などに協力します。

さらにwebサイトに専用ページを作成しました。「学校危機メンタルサポートセンター」(メンサポ)では子どものケアについての情報提供や相談活動を実施しています。

### 五月祭で被災障がい者支援の訴え

特別支援教育教員養成課程では、震災発生後すぐに、院生、特別専攻科の学生、学部生等数名が、各々のルートで宮城県東松原市、宮城県石巻市、岩手県陸前高田市等の被災地に入り、ボランティアを行いました。現在も、NPO法人と連携し、長期間被災地の児童・生徒の学習支援等を行っている学生もいます。このような様々な学生の熱い思いを受け、教員と学生が一体となった「東日本大震災被災障がい者支援プロジェクト」が4月11日に

設立され、活動を展開しています。このプロジェクトは、特別支援教育専攻の大学院生・1 回生から4回生までの特別支援教育教員養成課程の学生・特別専攻科の学生・教員有志約80名で構成され、①被災地のニーズの把握・ネットワークづくり、②啓発活動・募金活動等による支援、③長期休暇を活用した被災障がい児支援、④被災障がい児の状況を伝える授業の教材化・被災障がい児対応マニュアルづくりという4つの柱を設け、取り組みを進めようとしています。

五月祭の5月20日から3日間は、柏原キャンパスで展示会を開催しました。会場では、被災障がい者の状況を伝える新聞記事を掲示したり、啓発用に制作したクリアファイル『HOPE for JAPAN~共によりそう』(写真)を販売しました。3日間で訪れた約100人に、被災した子どもたちの実態を訴えるとともに、クリアファイル約700枚が販売されました。売上げは特別支援学校の被災障がい児のために使用されます。

学生側代表者の吉川悠貴さん(大学院教育学研究科特別支援教育専攻2回生)は「学生の中には活動に興味をもっていただき、次回の活動から参加したいという人もいました。他の団体で活動されている市民から、連携の申し出もありました。また、車いすの方や知的障がいがある子どもたちも多く来てくださいました」と話します。

教室に設けたボードには多くのメッセージや 絵の書き込みがありました。

「準備不足は否めませんでしたが、展示など によってぼくらの活動を伝えることができたよう に思います。そして、被災地での障がいがある 方のニーズを知ってもらえたのではないか」 (吉川さん)

学生側共同代表の楠敬太さん(同)は「1年間活動を継続させることが大事だと思っています。当面の活動として、皆で夏休みに被災地に行き、現地で自閉症や難聴など障がいのある子どもの学童保育に取り組みたいと思っています。そして一連の取り組みを秋の神霜祭(11月、大学祭)に集約し、全学に発信したいと思います」と語っていました。

### 教育科学専攻の学生もボランティアに 一被災地には若い力が必要一

中学校教育科学専攻4回生の松瀬大洋さんは、4月から計3回被災地にボランティアとして参加しました。最初のきっかけは、父から「教育大の学生なら、こういうときに率先して活動するべきではないのか」と言われたことだそうです。必要物資を60Lのリュック3つ~4つに詰め、父とワゴン車で出かけたそうです。1回目は4月7日から3泊4日で宮城県石巻市に、2回目は単独で大阪市社会福祉協議会のボランティア派遣、3回目はNPO法人の派遣に参加しました。

「今回の大震災は歴史に残る大事件です。 はくたちは戦争を知らない若い世代だけれど、 やらなければいけないと思います。被災地には 若い力が足りないと毎回、痛切に感じます。本 学の学生も是非、ボランティアに参加し、現地の 状況をみてほしい。その経験は、将来、教師と して子どもたちの前に立ち、人生を語るうえで必 ず役に立つと思います」と熱く語っています。

### **HOPE** for JAPAN









松瀬さん

# 附属学校園ウォッチ



### 夢農場[ミラクル]で活動

### 附属特別支援学校

平成20年4月に就任された附属特別支援学校守屋國光校長(現本学名誉教授)の提案を受けて、中学部が中心となり、本校PTAならびに大学の特別支援教育講座の協力を得て、「生きる力」(中央教育審議会、1996)の育成をめざした余暇支援活動として、週末に自由に楽しめる農業体験活動「夢農場ミラクル」を行っています。

具体的には、守屋前校長が、平成20年6

月18日に、大阪教育大学の栗林澄夫財務担当理事から大学敷地内のC7棟に隣接する1千坪程の空き地を農場として使用する許可を得て、6月21日に長尾彰夫学長にその旨を報告して了承を得ました。そこで、毎月第2と第4の土曜日を基本的な活動日にして、在校生と卒業生、その保護者、大学の学生たち、教職員など、いろいろな人たちが協力し合いながら農業体験活動を行っています。

農場名でもあり活動名でもある「夢農場ミラクル」は、母なる大地に根差した活動を通して、誰もが自由に語り合い、助け合い、協力し合いながら、生きる力を育み、未来への夢を育んでいける、そんな豊かな農場ならびに活動になっていくことを期待して、守屋前校長が命名されました。

早や3年がたち、昨年度は玉ねぎ、ピーマン、 大根を収穫しました。また、収穫した玉ねぎを用い、カレーライスを作って食べたり、餅つきも行いました。今後は、「収穫した野菜を生協食堂や大学祭で販売したい」というみんなの思いが、 鍬を持つ手や草を引く手に伝わり、生き生きとした表情があふれる時間を過ごしています。



てんゆうツイッター

## 天遊twitter

このたびの東北地方太平洋沖地震で被災された全ての皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

### 【被災地域の方へ】

被災地域にある、大学、学校等では、一日も早い教育・学習環境の整備に向けて懸命の努力を続けておられることと思います。本学では、学校危機メンタルサポートセンターが保護者の方及び教職員の方へ向けて、「被災した児童生徒の心のケアについて」や「被災後の学級運営での留意点」等、被災後の子どもさんのこころ、からだ、行動の見守り方、接し方に関する情報を発信しています。お役立ていただければ幸いです(本学ホームページをご覧ください)。また、医師・臨床心理士の資格を有する教員数人が児童・生徒の心のケアに微力ながらお手伝いできればと旅支度をしてスタンバイしています。必要とあらばお申し付け下さい。

### 【本学学生・教職員の方へ】

学生や教職員からは、被災地域でボランティア活動をいますぐにでもしたいという要望が寄せられています。本号でもとりあげましたように、既に何人かの学生の自主的な活動が伝えられています。また、この夏休みには、宮城教育大学が企画している復興支援事業に参加し、協同で被災地域の児童・生徒の学力向上や教員の補助に当たることを計画しています。

現地ではやや小康状態になったとはいえ、相変わらず余震が続いており、慎重な対応が必要な状況も見受けられますので、現地での状況や、活動態勢等の確認をしながら、皆さんの熱意が十二分に発揮できるような取り組みをしたいと考えています。詳しくは、「大阪教育大学東日本大震災復興支援対策委員会」にご連絡ください。

被災地域の一日も早い復旧を重ねてお祈り申し上げます。

(理事・岩川雅士 5月30日記)

### 天遊vol.18アンケート

-- (±11 k 11) Sec ---

●本号	でよかった	記事を下が	から選んでくだ	ださい。
(3つき	まで。その他	は具体的に	こお書きくだる	さい。
	17	17	1	

①新入生へのメッセージ

③ひと最前線 ®STUDENTS NOW!

⑤STUDENTS NOW!

⑦卒業生CATCH! ⑨附属学校園ウォッチ ⑥学びリアルタイム ⑧東日本大震災支援

②大学による安全の取り組み

**10TOPICS** 

④ラボ訪問

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。

●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

### 〈本学学生の保護者の皆さまへ〉

、本チチェの体展者の自己は、シ ●次号以降も広報誌『天遊』の送付を希望される方は記載をお願いします。

₹

ご送付先

ご芳名

お電話番号

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用致しません。

# aka kyoiku universit

教員養成事業で本学と 池田市教委が協定締結



本学と池田市教育委員会は 4月22日(金)、両者が協力して 教員養成事業を推進する協定 を締結しました。大学や附属学 校の教員を派遣するなどして、池 田市における教員養成に関して 連携協力を行うもので、本学に とっては、地域のニーズに応えて 自治体と共同して教員養成を行 う社会貢献事業の一環です。

池田市では、平成23年度に 「ふくまる教志塾」という名称で 教員養成事業を新規に実施し ます。池田市の教員をめざす優 れた人材の発掘・養成がねらい

で、大阪教育大学など近隣の大 学生を池田市立小・中学校へ 派遣し、教育現場を体験するとと もに、基礎的基本的な指導に関 する研修や池田市のことをより 知ってもらうセミナーを実施します。

この夏、柏原キャンパスで 小学校英語教育の大会



『第11回小学校英語教育学 会(JES)大阪大会』(JESと本 学の共催)が7月17日(日)、18 日(祝、月)の両日、柏原キャンパ スを会場に開かれます。

今年度からスタートした「小学 校外国語活動」、学校現場では

様々な課題が浮かび上がっていま す。大会では、先進校の歩みに学 び、10年後をめざして生き生きと取 り組む外国語活動を提案します。 公開授業(ビデオ)、自由研究発表、 講演会、ワークショップ、シンポジウ ムなど多彩な取り組みを予定して います。

参加者は全国から約600人を予 定しています。

### 【問い合わせ】大会事務局

〒543-0054大阪府大阪市 天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 天王寺キャンパス 実践学校教育講座 柏木賀津子研究室 TEL. 06-6775-6636(直通)

【大会事務局メール】 contact@jes2011osaka.info

「教える『英語力』向上プログラムの構築」 webページ

http://www.bur.osaka-kyoiku. ac.jp/kikaku/program/egp/

学生広報

03

X

「DAIKYO PRESS」が -ペーパーを発行



本学の学生で構成されている学 生広報グループDAIKYO PRESS (大教プレス)が5月10日(火)にフ リーペーパー「DAIKYO PRESS」 春号を発行しました。

2号目となる春号では、「卒業生 のDo it 新入生のWill do」と題し、 卒業生には在校生へのメッセージ、 新入生には大学生活でやりたいこ とを取材し、学生の写真とともに紹 介しています。

その他にも、笑顔のステキな学 生や、サークル・ボランティア活動 に頑張る学生を紹介するコーナー、 大教プレススタッフのオランダ小学 校訪問記など、学生目線で書かれ た記事が掲載されています。

フリーペーパーを手にした学生は 「毎号楽しみにしています」「いろん な人の話が読めておもしろい」と話 していました。

大教プレスのスタッフは「大学の 新たな魅力を伝えるように心がけて 制作しています。次号も多くの人に 読んでほしい」と話していました。

次号(第3号)は、7月31日の オープンキャンパスに発行を予定し ており、高校生や在学生が楽しめ るような、「ファッションスナップ」や 「学科イメージ調査」、「食堂ランチ ランキング」など企画しています。

大数プレスblog http://osaka-kvoiku.ac.ip/

郵便はがき

----- <=U\U\>

料金受取人払郵便

柏原支店 承 認

差出有効期間 平成23年12月 20日まで

切手不要

5||8||2||8||7||0

### (受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 大阪教育大学管理部企画課 広報室行

իլի ինքիր Ալիիկիաի փոնդ հունդ հու

### ※該当する番号を○で囲んでください

### あなたのご所属を教えてください

①木学関係者 ④中学校教員

② 高校生

③小学校教旨

⑦他大学教職員 9その他 (

⑤高等学校教員

⑥教育委員会関係者

⑧他大学学生

### ①と答えた方は以下から該当する番号をお選びください

4)大学保護者 ⑦附属学校教員

⑩名誉教授

②大学教員 ⑤大学卒業生

⑧附属学校保護者

③大学職員 ⑥附属学校生

①その他(

⑨附属学校卒業生

### 本誌にご意見をお寄せください。

広報室では、今後の誌面作りに皆様のご意見 を積極的に取り入れていきたいと考えていま す。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知 りになりたいことなどを、はがきまたはwebア ンケートでお聞かせください。

# webアンケ 国政治

天遊vol.18

### 天遊 とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたも ので、人間の心の中に自然に備わっている 余裕をあらわしています。キャンパス統合 移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3 団体から寄贈された記念碑に銘文として 刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌( 山耀)本学名誉教授によるものです。



本紙は再生紙を使用し、環境にやさしいベジタブルインキで印刷しています。 この印刷物は、16,000部を634,000円で、すなわち1部39.6円で作成しました。

